

平成30年度地域包括支援センター事業評価表

地域包括支援センター名：長久手市社会福祉協議会

重点取組項目		地域包括支援センター評価欄		市評価欄	
1. 個別地域ケア会議の推進		自己評価	自己評価の説明	市評価欄	市補足説明欄
事業目標(スローガン)	具体的な取り組み				
<p>多職種連携による個別のケア支援と地域課題抽出のため、個別地域ケア会議(学習会)を定期的に行う。</p> <p>【数値目標】</p> <p>1.個別地域ケア会議(学習会)を、年12回開催する。</p> <p>2.個別地域ケア会議(学習会)で抽出された地域課題を四半期毎に分析する。</p>	<p>1.毎月行われる両地域包括支援センター連絡会において個別地域ケア会議(学習会)の学習会の振り返りを行い、地域課題の抽出・分析を行う手順化について検討する。</p> <p>2.外部講師による地域ケア会議の学習会を両地域包括支援センター合同で実施する。(会議の司会進行やファシリテートについて学ぶ)</p> <p>3.個別地域ケア会議(学習会)後に情報交換の場を設け、顔の見える関係作りを行う。</p> <p>4.地域ケア会議で抽出された地域課題を両包括連絡会で分析し、市へ報告を行う。</p> <p>5.個別地域ケア会議への参加呼びかけを、電子連絡帳等を活用し行う。</p>	○	<p>【実施内容】</p> <p><数値目標></p> <p>1.個別地域ケア会議を12回開催した。</p> <p>2.四半期毎ではなく6月以降毎月地域ケア会議後に地域課題の抽出・まとめは行ったが、分析まではできていない。</p> <p><具体的な取り組み></p> <p>1.両包括支援センター連絡会にて地域ケア会議学習会の振り返りを行い、適宜実施手順を修正した。地域課題の抽出は地域ケア会議実施後に話し合いの時間を設けるようにし、分析のために、課題を地図上に落とし込むこととした。</p> <p>2.県アドバイザーによる指導・研修を受けた(6回)。地域ケア会議研修、司会者研修に参加した。</p> <p>3.地域ケア会議実施後に参加者の情報交換の時間(もぐもぐタイム)を設けた。</p> <p>4.両包括連絡会で地域課題の抽出までは行えたが、分析は行えていない。</p> <p>5.電子連絡帳及びチラシ、FAX等による呼びかけを行い、参加者や参加職種が増えた。</p> <p>【補足説明】</p> <p>個別地域ケア会議学習会にて予防プラン6件、介護プラン6件の事例を検討することができた。地域課題の分析までは行えなかったが、振り返りやアドバイザーの助言を受けて長久手市の実施方法の形を作り、他市町から視察を受けるまでとなったため、概ね達成とした。</p>	○	<p>・29年度の蓄積を活かし、30年度は事例を要支援だけでなく、要介護1、2まで広げ、多様な事例について検討を行うことができた。</p> <p>・愛知県の30年度地域ケア会議モデル自治体の一つとして、県派遣のアドバイザーから意見を受けつつ、毎回市と包括で振り返りを実施し、より良い場となるよう改善を繰り返した。</p> <p>・29年度に比べ、管理栄養士、薬剤師、コミュニティソーシャルワーカーなどより幅広い職種の方に定期的に参加いただけるようになり、会議で出される意見の幅が広がった。</p> <p>・事例検討の直後に地域課題を抽出する時間を設けるとともに、抽出された課題を地図上に落とし込むようにした。</p>

重点取組項目		地域包括支援センター評価欄		市評価欄	
2. 総合事業の推進		自己評価	自己評価の説明	市評価欄	市補足説明欄
事業目標(スローガン)	具体的な取り組み				
<p>総合事業の受け皿となる社会資源を、さがす・つなぐ・支える。</p> <p>【数値目標】</p> <p>いきいきサロンを全箇所1回訪問する。</p>	<p>1.地区社協及び生活支援コーディネーター等と情報共有を行い、地域の状況把握を行う。</p> <p>2.高齢者の居場所となる高齢者向けのサロンや集いの場に出向き、市民のニーズ把握を行うと共に、運営の支援を行う。</p> <p>3.総合事業・一般介護予防事業の対象者把握に努め、適切なサービスや社会資源につなげる。</p>	○	<p>【実施内容】</p> <p>＜数値目標＞</p> <p>いきいきサロン全箇所訪問し、サロン内容を把握。相談対応時に具体的に内容を紹介することができた。</p> <p>＜具体的な取り組み＞</p> <p>1.小学校区別の最新サロン情報提供をCSWに依頼し、社会資源の把握に努めた。</p> <p>2.担当地域のシニアクラブ(1団体)が休会となったが、休会後も月1回は集まる機会が持てるよう、2か月に1回の開催予定であったいきいき倶楽部を、毎月開催に変更するための支援を実施した。</p> <p>3.相談対応時、適宜総合事業・一般介護予防事業の対象者把握に努め、総合事業申請やいきいき介護予防教室や買い物リハビリ、地域サロン参加につなげることができた。</p> <p>【補足説明】</p> <p>いきいきサロンやその他介護予防教室を訪問、また地域のサロンや高齢者生涯学習講座の情報等も収集することができた。情報収集した内容を相談業務に活かすことができたため、概ね達成とした。</p>	○	<p>・地区社協や生活支援コーディネーターなど関係者との情報共有を密接に行うことで、介護保険以外のサービスを把握し、市民の相談内容に応じて適切につなぐことができた。</p> <p>・地域のサロンを訪問して支援が必要な方の対応を行ったり、サロン運営のサポートをしたりすることで、介護保険に至る前段階での対応に注力することができた。</p>

重点取組項目		地域包括支援センター評価欄		市評価欄	
3. 円滑な情報収集・発信の推進		自己評価	自己評価の説明	市評価欄	市補足説明欄
事業目標(スローガン)	具体的な取り組み				
<p>地域住民にとって身近で気軽に相談できるセンターを目指す</p> <p>【数値目標】</p> <p>1.新たな出張相談場所を2か所増やす。</p> <p>2.担当小学校区内にある医療機関・薬局等への地域包括支援センターのチラシ設置15か所を目指す。</p> <p>3.啓発活動を含めた出張相談・出前講座を年40回実施する。</p>	<p>1.担当小学校区において、出張相談や出前講座を行い、情報収集及び周知活動を行う。</p> <p>2.市民が集まる(通う)場である医療機関や、薬局、定例民生委員児童委員協議会、地区社協、喫茶店、高齢者生涯学習講座などでの啓発活動。</p>	△	<p>【実施内容】</p> <p><数値目標></p> <p>1.薬局との合同相談会を新たに行う事ができた。</p> <p>2.包括支援センターのチラシ設置依頼は7カ所に留まった。</p> <p>3.出張相談40回と出前講座6回開催、いきいき倶楽部に74回参加した。(合計120回)</p> <p><具体的な取り組み></p> <p>1.出張相談や出前講座、いきいき倶楽部での地域課題や安否確認等の情報収集、包括支援センターの周知活動を行うことができた。</p> <p>2.薬局との合同相談会、喫茶店での出張相談を行うことで啓発活動を行う事ができたが、医療機関や薬局へのチラシ設置による啓発活動については目標達成できず。</p> <p>【補足説明】</p> <p>情報収集・啓発活動を目的とした出張相談や出前講座の開催、いきいき倶楽部への参加は目標回数を上回る事ができたが、新たな出張相談場所は1か所の増であり、包括支援センターのチラシ設置は7カ所に留まっている事から一部達成できなかったと評価した。</p>	○	<p>・目標回数以上に出張相談や出前講座を実施することができ、市民からの相談対応や地域課題の収集を積極的に行うことができた。</p> <p>・医療機関や薬局へのチラシ設置は目標値未達成であったが、ドラッグストアと連携した合同相談会を新たに開催し、買い物に来た市民が気軽に相談できる場の設置に取り組んだため、総合して○とした。</p>

評価基準

- ◎ 職務及び業務が十分に評価でき、運営方針を上回る業務を実施した。
- 職務及び業務が予定どおり遂行できた。
- △ 何らかの理由により一部分遂行できなかった。
- × 全く遂行できなかった。

その他留意事項						
4. 運営体制			地域包括支援センター評価欄		市評価欄	
留意事項		評価項目	自己評価	自己評価の説明	市評価欄	市補足説明欄
(1)	事業計画の策定	各センターの当該年度の事業計画に基づき、計画的な事業運営を行っている。	△	年間スケジュールを作成し、毎月の進捗状況を確認しながら事業運営を行ったが、一部予定通りに業務が遂行できなかった	△	・職員の対応姿勢や個人情報の保護等、基本的な地域包括支援センターの運営体制は整っている。 ・業務が多忙になる中、地域包括ケアを推進していくための様々な研修や会議等に参加し、資質向上を図り、運営方針に定める、自らが高齢者を支援するだけでなく、支援する人を地域に増やしていく仕組みづくりへの意識を高めた。
(2)	公立・中立性の確保	各センターの職員は、中立・公平の立場でなくてはならないことを理解している。	○	理解し業務に従事した。 相談時には複数の提案を行い、相談者に選択・決定をもらった。	○	
(3)	設置場所等	市民や多様な関係者がアクセスしやすい場所に事務所を設置している。	○	事務所はバス停の傍にあり、駐車スペースも十分にある場所に設置している。	○	
(4)	職員の姿勢	地域に暮らす高齢者が住み慣れた環境で自分らしい生活を継続させるための支援であることを念頭に置き、常に当事者に最善の利益を図るために業務を遂行している。	○	各自支援の理念を念頭に置き、業務に従事した。 資質向上のため、係内でのケース検討や外部研修に参加した。	○	
(5)	個人情報の保護	安心して相談ができるよう、プライバシーが守られるように配慮されている。	○	来所相談は個室で対応し、プライバシーが守られるように配慮した。 ケアマネジメント業務において個人情報使用同意書を整備、重要事項説明書に個人情報保護について明記し説明している。	○	
		個人情報の取り扱いについて、関係法令を遵守し、厳重に個人情報の保護を図っている。	○	法人内の個人情報保護規定や関係法令を順守し、個人情報の取り扱い及び管理には細心の注意を払った。 相談記録等のデータやケースファイルは鍵の鍵付の書庫で保管し、パソコンや介護システムはパスワードを設置している。法人内のファイルサーバーについても、当事業所の職員しか操作できないようになっている。	○	
		相談記録や実績等のデータは厳重に保管・管理されている。	○		○	
(6)	広報活動	パンフレットや広報紙等を作成し、様々な施設への配布を行うなど広報に努めている。	○	出張相談や出前講座でのチラシ配布、医療機関や薬局へのパンフレット設置、市広報誌への記事掲載を行い、広報活動を実施した。	○	
(7)	苦情対応	苦情受付担当者・責任者を利用者に分かるように示している。	○	重要事項説明書に明記し、説明している。	○	